

## 平成 22 年度第 3 回市民協働推進委員会会議概要

日 時 : 平成 22 年 12 月 27 日 ( 月 ) 9:30 ~ 12:30  
会 場 : 社会福祉センター地下会議室  
出席委員 : 関谷委員長、高岡副委員長、長谷川委員、浅野委員、渡辺委員、竹内委員、  
角田委員、松崎委員  
事務局職員 : 小林自治人権推進課長、江波戸副主任幹、上野主査、小田主任主事、橋本主任主事  
高柳主事  
傍聴者 : なし

### 主な議題

- ( 1 ) 平成 22 年度市民協働推進講演会・事業報告会・事業評価等について
- ( 2 ) 平成 22 年度市民協働事業の進捗状況等について

### 1 . 平成 2 2 年度第 3 回市民協働推進委員会 開会

事務局：会議の公開について。本日の会議については全て公開とさせていただく。定刻となったので、平成 2 2 年度第 3 回市民協働推進委員会議を開会する。  
それでは、会議次第 2 番目、委員長挨拶に移らせていただく。

### 2 . 委員長あいさつ

委員長：本日が第 3 回の委員会ということで、年度内の会議はあと 2 回予定されている。日程調整等についてはまた後ほどお願いしたい。市民協働とは、佐倉市の底力を作り上げていくために必須の取り組みである。これに向けた活性化のさせ方も検討している所で、それをこれから一步一步重ねていくので、引き続きよろしくお願ひしたい。  
まず、会議に先立ち、先程事務局からあったように、通常通り公開ということで進めさせていただく。本日は 1 0 名中 8 名の委員が出席し、過半数以上の委員が出席しているため佐倉市市民協働の推進に関する条例施行規則 1 8 条第 6 項の規定により、改めて開催されるということをご確認いただきたい。

### 3 議事

( 1 ) 平成 2 2 年度市民協働推進講演会・事業報告会事業評価等について

委員長：まず事務局から説明をお願いしたい。

事務局：資料に基づき説明。

委員長：2月27日の日曜日に、毎年開催している市民協働推進講演会と活動報告会を実施するというので、この日は午前中に市民公益活動サポートセンターでポスター展示と市民公益活動団体の集いが行われ、午後の会場は志津コミュニティセンターでよろしいか。

事務局：はい。

委員長：志津コミュニティセンターで12時半開場、1時から開会するというので、全部で三部構成という提案が事務局からあった。第1部は例年通り、各団体からの発表。そして、第2部は講演会。最後は全体のコメントという3部構成で準備が進められている。もう1つ、まだ日程は決まっていないが、事業報告会も予定されている。昨年度は大体半日程度の開催時間だった。昨年度のタイムスケジュールでは、まず地域まちづくり協議会の事業評価が行われ、次に市民提案型の協働事業の事業評価、最後に行政提案型の事業報告が行われた。この事業評価については全ての団体を事務局が資料に基づいて報告する。それに対して我々が、講演会では難しい、活動の立ち上がった内容も含めて確認をするというのがポイント。併せてこの委員会が、団体に対して今後に向けたアドバイスとなるような評価をするというのが事業評価の趣旨。それを講演会とは別途の日程で開催する。この2つの行事について、特に内容、構成についてご意見をいただきたい。採択された活動団体に、これから市民活動をやって行こうという方々に対して、アピールをする場になるというのがポイント。市民活動というものが、非常に楽しいものであり、また重要なものになるということを少しでも知る機会になればということで、毎年開催をしている。何か改善点等があれば出して頂きたい。

委員：午前中に団体の集いがあるが、これは同じ場所で開催するのか、確認したい。

事務局：はい。同じ志津コミュニティセンターの2階の会議室で開催していただくように、場所の調整をしている。

委員：午前中の行事が終了するのは12時か、11時半くらいか。

事務局：例年 1 1 時半くらいに終了予定だが、交流の時間にかなり意欲的に参加されているため、大体 1 2 時くらいまで開催されている。午前中の行事の中で、午後の行事への参加の呼びかけを団体の方からしてくれるとのこと。

委員：昼食や、準備の時間があるので、時間的な心配がある。

委員長：午前中の行事自体は 1 1 時半くらいに終わらせて、午後までの空いた時間に交流してもいいし、昼食をとっていただく等、柔軟に繋いでいくという理解で良いか。

事務局：はい。午前と午後の間に空いて、参加者が帰ってしまわないような時間の流れの方を重視している。

委員：市民協働事業の紹介は事務局の方から、とのこと。時間的な問題もあるとは思いますが、臨場感を考えると、各団体の方々が発表された方が良いのではないか。

委員長：報告会については団体の方が発表するのか。

事務局：メインの事業自体は事務局が説明し、各団体の代表者からは、ブースの見所を一言述べてもらう、というプラン。団体の方々は熱意があるために、どうしても時間が延びてしまいがちな所がある。以前交流会を開催した時も、自己紹介で半分以上終わってしまった。きちんと自己紹介をしようとするとう団体の歴史から始めざるを得なくなり、メインの交流の話以上に、団体の歴史の話題が伸びる傾向がある。交流会での団体の方々の意見として、報告会は参加された方に楽しんでもらうことを主軸にしたい、というのが大勢だった。きちんと団体の歴史から報告するのではなく、その点は割り切ってしまう、楽しんでいただくことをメインに開催する、という方向で団体の方々からも了承を得たため、このようなプランにした。ただ、臨場感という面では、事務局からの冗長な報告ではない何か別の良い方法があれば、その方が良いと思っている。

委員：9 団体が壇上または各ブース前で見所を紹介とある。これが 1 分というのは短いのではないか。第 1 部の紹介を事務局がするのであれば、ブース前で見所紹介は多分一分では終わらないと思う。壇上に上がって、既に 1 分経っていたという感覚だと思うので、2 分から 3 分くらいを目安としないと難しいのではないか。

委員長：見所だけを述べてもらえば良い。1 分という予定でも、結果として 3 分はかかる。事務局がやった方が効率的と言えば効率的だとは思いますが、可能であれば当事者に話をさせていただきたい。団体の紹介は今年こんなことしたとか、活動のポイントになることを

話せば、3分は経過するというイメージを持っておく。もちろん事前に、団体の方に時間が限られているのでポイントだけで、団体紹介や履歴は話さないで欲しいとお願いしておく。詳細については資料を用意し、ブースを案内することで補えば良いと思うが、いかがか。

委員：私は交流会に参加したので、その時の雰囲気と話の内容を説明させていただく。確かに活動紹介に時間がかかっていた。しかし、各団体がお互いに何らかの経緯で知っているということもあり、沢山の質問と意見のやり取りがあり、非常に和やかな雰囲気の中で団体の状況報告がされていた。この報告会について、団体の方々は皆、どういう活動をしたか、というよりとにかく多くの参加者が来てくれるような催しにしたいという意見。来ていただいて、楽しいとか勉強になる、そういったお祭りのような行事にしていきたい、という話でとても盛り上がっていた。それが反映された上での、このプランだと思う。団体の方々が、事業の方針についてお互いに意気投合しているので、任せたらそれぞれ工夫して何かいいものが出来ると感じた。気兼ねなく報告し、明るく勧誘できるような雰囲気のお祭り気分の行事にしよう、ということ。報告と言っても、あまり詳細なことは不要だと思うので、その辺の時間配分については先程のお話のようにする。

委員：お祭りのような行事にしたいという話と関連して、例えばブースの中で、各団体が紹介の他に何か販売すること等も想定しているのか。

事務局：団体の方々に、企画書にそれぞれ出来ること、出来ないことを記入して提出していただき、それを我々で選定させていただくという形をお願いした。なるべく参加者が楽しんでいただけるようなブースづくりを進めて行く。例えばNPO子どものまちであれば、ブースに縁側カフェを再現して、コーヒーやお菓子等を販売するという案も出ていた。方向性としてはそのような方向性で考えていただきたい。佐倉子どもステーションの場合は、講演に関するアンケートを取る場にしたいとのこと。今まで佐倉子どもステーションはイベント系等の楽しいブース出しも可能だが、今回は、アンケート調査をさせてほしい、というお話があった。それぞれどんなブースが出したいかという方向性は楽しいものとして一致している。何を提供するかは各団体の提案次第ということになる。販売もある方が楽しくなるとは思っている。

委員：会場には舞台があるが、舞台を前にして、四隅をぐるっと壁際にブースを作るというレイアウトを想定しているのか。それとも、舞台に向かう形で椅子を並べるような想定なのか。

事務局：レイアウトについてのご意見もいただきたい。講演会の開催にあたり、教室形式

がいいのか、それとももっと緩やかな会場づくりが良いか等、アイデアがあれば。ただ単に椅子を講師に向かって並べるのではないレイアウトも選択肢の1つだと思っている。というのは、ブース自体は確かに壁沿い三面というのを想定しているが、客席中央のレイアウトについては、工夫の余地があると感じているため。

委員：ブースの中で各団体が自己PRをするのであれば、おそらくそちらも予定の20分よりも長くなってしまふことが予想される。団体の紹介というのは20分もいらぬのではないか。事務局の紹介もあり、団体の紹介を1分としておけば3分くらいになると。その後の残り時間をブース見学に使ってもらふのが一番良いと思う。

委員：第1部において、9団体を事務局から20分の紹介というのはぎりぎりだと思う。体系的に見てもらふという面では、ブースを見てもらふ時間や質問時間も設けてあるので、この案でうまくいきそうな気がする。発表会の時に上手に発表できる団体と、どうも活動内容が発表できない団体とばらつきがあるので、気の毒だと思っていた。事務局に説明は任せ、アピールする部分というのは1分で十分。後は皆さんにブースを見てもらふ、それぞれ参加者も興味があるブースは違ふので、平等に同じ時間説明するのは非効率。各ブースで直接やり取りする時間をもっと長くした方が良い。前半にブース見学が25分あり、休憩を兼ねた時間にブースを見てもらって紹介するという時間が20分設けてある。その為にはブースがあるのではと。

委員：私も同意見。今回はお祭りのな要素を取り入れるという話なので、報告会、講演終了後にマジックショー等が予定されている。その部分で、司会の方がうまく出来るかによる。9団体の代表者のブースの前で司会者が団体の方に聞いたり、ブース見学の時間には各ブースの紹介など、司会者によって盛り上がり方が違ってくる。講演会時には、ブースを見るのをやめていただいて、全ての方に聞いてもらえば良い。9団体の紹介については、見る人もいて、聞く人もいる。ブースを見たい人にはながらで耳に入っていれば良いと思う。司会者の力量で、成功するか否かは決まるかと。

委員：各団体による見所紹介は、壇上ではなく、それぞれのブースの前に立ってした方が良いと思う。

委員：質問書に対しての質問。文書回収となっているが、質問というのは色々な質問が出てくると思われる。活動自体の質問もあれば、市民協働の本質的な質問もあるだろうし、講演会後なので講師への質問が出ることも予想される。これを一括りにして、第3部で回答しきれぬのか。それとも、質問を後回答にするのか。

事務局：質問書の書式としては、講師へ聞いてみたいこと、これから佐倉のまちを魅力的にしていくためのあなたのアイデア、という書式にし、基本的にはそちらに集約した形で講師にお答えいただく時間にする。整理しないと時間がとても足りないので、書式自体をそのようにさせていただこうと思っている。他の質問もあると思うが、その点についての対応については、申し訳ないが未だ検討中。

委員：やっと全体構想が見えてきたという感じ。とにかく誰を集めるのかという所から考えなければならない。午前中の集いはサポートセンター絡みだが、そんなに数は期待できない。今回報告会の関係者だけとすれば、志津コミュニティセンターを使ったボランティアの集いのイメージ。どれだけ人が来るのだろうかという不安がともある。ボランティアの集いと同じような構想になろうとしている。ブース系、そこに活動報告をする人達のブースがあり、飲み食いを皆楽しみにして、集い全部が飲み食い場所みたいになる。2階も使いながら、環境系だとか色々な活動をしている人達がいる。そこで一休みしながら、交流するというイメージ。誰をターゲットにして、参加案内等を出していくのか。ボランティアの集いが2月1日に開催され、27日にこちらも開催すると、このプランではボランティアの集いに負ける。関係する人達はほとんどがボランティアの集いにも参加する。あちらは500人か600人参加者がいたかと。

委員：いつも大体約800人近く。

委員：その点で考えた時、迫力その他全てで負ける。どのような風に参加者をターゲットにするのか。何か考えはあるか。

事務局：今回、市民提案型、行政提案型とも、内容的に子供向けの支援事業や、若い団体が比較的多かったため、講師も若い方に依頼した。日曜日に実施するが、ターゲット層として、出来れば30,40代の女性の方に興味を持っていただきたい。託児等も利用する予定。ターゲット層を全体に拡散しすぎるとイベントがぼやけるというのは把握しているが、報告会のニュアンスがあるだけに、あまりにも狭めることも現状難しい。今回のブース出しの内容、出てきた企画内容にもよるが、この点を裏テーマにしながら広報のチラシなどを使って、若い層に投げかけたいと思っている。ターゲットの主軸として、子ども会やヤングプラザ等に働きかけたい。

委員：働きかけの仕方について伺いたい。

委員長：ボランティアの集いと、今回のイベントは、大体似たようなイメージなのか。

委員：ボランティアの集いというのは、市民対象ではあるが、ボランティアがメイン。自分達の活動発表を織り交ぜながら、交流をしていく、というのがテーマでもある。その中に体験があったりする。今回のイベントは報告会という役目もあるので、そこまで碎けなくても良いと思う。本当に若い世代を巻き込むのであれば、まち協の人達はどうか、とは思った。市民全体に声を掛けながらも、絶対に来てくれる人達への囲い込み等、裏での根回しも必要。

事務局：集客については、アイデアをいただきたい所。ボランティアの集いとは類似してしまうが、参加人数800人という数字はライバル視できない規模なので、むしろいい手本と考えている。去年より多く来ていただくように、という形で進めていく。ボランティアの集いのように楽しそうな雰囲気、というイメージで来ていただきたいと思っている。市民公益活動団体の集いについては、こちらも市民公益活動サポートセンターの登録団体の交流会ということで、各団体の活動発表と話し合いの場だけなので、ブース出し等はせず、会議室を自分達で借りて話し合いをするという形となっている。先程の意見のように、人数としては30人程度なので、そこからすごい人数を呼び込むことはない。サポートセンターの事業と全くリンクしない、例えば西志津ふれあいセンターで同じ日に集いをやっているのにこちらでは報告会をやるというような、あまりに連携が取れていない関係だけは避けたい。当初、市民公益活動団体のフェアと共催するのが最善の手段だと考えていた。しかし、9月の交流会の際に自分達の交流を深めたいという意見をいただき、サポートセンターと協議の上、交流の時間を多く取る企画にした。そのため、今回は午前のイベント後に続けて参加していただけないかという喚起の仕方になった。

委員長：ボランティアの集いは、活動団体相互の交流の色が濃い。これまでの市民協働の報告会というのは、活動を知ってもらいたいというのが第一のポイント。要するに3つの制度があるということ。まち協と市民提案型と行政提案型、この制度を知ってもらいたい、あるいは興味を持ってもらうための発信する場にしたいということもこれまでの経緯に含まれている。とすると、活動している方相互の交流も勿論大事だが、一方で活動されていない方々をターゲットにしながら、どれだけ多くの人達を巻き込んでいけるか、あるいは興味を持ってもらえるかが大事。市民協働型は申請方法がかなり難しいという話もあるので、毎年工夫出来るのではないかと検討している所ではあるが。

委員：物品販売や飲食物の提供が楽しいというのが、来る人が本当にそれを求めているかということ。ボランティアの集いと違い、参加者が実際に活動していなくても、これから自分達がやりたいことを探す所なので、あまりワイワイやる必要は無い。この活動報告会に沿ったものかどうか、という点で割り切るべき。例えば1つの物品販売ブースばか

りに参加者が集まるということを守るためには、ブースでは活動を報告するのみに止め、今回は物品販売に取り掛からないほうが良いと思う。本質に沿った形で、例え多くの参加者が集まらなくても、次に繋がる力のある人が来れば良い。あまり数にこだわる必要は無いと思う。

委員：やはり力のある人が来るかどうか。まちづくり協議会についても、私の自治会でも自治会長がとても悩んでいる。1年交代という中で、まち協に参加出来るか出来ないか。面倒なことはやめようという人が多いが、そのような人達の中からやる気のある人を出す為に、どこに声掛けをして、感化させるかが問題。福祉大会等では、民生委員や町内会長等色々な人が文書を出して、例えば社会福祉協議会が主催である福祉大会であれば、社会福祉協議会職員が地域を回って、これだけの方に尋ねてくれという根回しをする。これはとても大切なこと。ターゲット層を一度公益活動全般に絞り込んで、NPO 法人や、まちづくり協議会等の団体で活動している所を狙いとしてどういう声掛けをしていくか。このような方法をとらなければならない。この辺は市がやるとやりにくいことがあると思う。

委員長：9団体というのは、市民提案型と行政提案型のみで、まちづくり協議会は入っていないか。

事務局：今年は、講演会には市民提案型4団体、行政提案型2団体、まちづくり協議会3団体の合計9団体が参加する。

委員：上志津原町づくり委員会というのがありますけど、それ以外にはまち協ってまだ出来ていないし、なかなか作れない状態なので、地域まちづくり協議会の宣伝を入れれば、その地区でのまち協に対しての気付き等も触発出来ると思う。そして、自治会連合協議会等に声をかけ、動員をかけていただくという方法も良いと思う。

委員長：参加してもメリットが無いという方もいると思われるので、これから立ち上げをしようとしている方々、自治会関係者の方に働きかけをして、立ち上げ寸前の方々に対してアドバイス出来るようにする。例えばこの委員会で1つのブースを作る等して、相談コーナーを設ければ、今後に繋がるアドバイスが出来る。ターゲット層に合わせ、入口が講演会なのであれば、相談しに来た人に対して答えられる場があれば、それだけで参加者が増える。ターゲットを意識したブースの組み立てをしなければならない。他の活動団体を見て、加えて質問もできるということを周知するのもよいのではないか。

委員：白井があれだけ充実したきっかけは防犯から始まった。私の地区でも、防犯でまと



まってきた。これから地域で交流を深めて、活動枠を充実させるのも1つの手段。声をかけて方々に来ていただいたら、他の活動団体を見て、話を直接聞くことが出来るようにする。まちづくり協議会についても、色々なイメージが出回っていると思われる為、直接言及する場を設ける。勿論市の担当者もいて、我々委員も色々な話を聞くというのを働きかけの段階で伝えてもらえれば、違ってくる。

委員：現在松が丘でもまちづくり協議会を作ろうという動きがあるが、要になっているのはやはり防犯。自治会をまたがり、自治会同士が協力できる防犯というのを昨日の夜も話した。交流の活性化の原点に防犯パトロールがあるとするれば、その点に言及するコーナーを設ける。それが地域全体につながって行った等、成功例を参考にさせていただく。少し重くなるが、まず最初に声を掛けるべき所は、防犯という自然に地域が抱え込んでいることだという捉え方をすると、この9団体プラスアルファ、という形もあり得る。

委員：ユーカリが丘が正に立ち上げようとしており、志津南部が準備会を作る等、まちづくり協議会は相当各地域に浸透し始めていると思われる。今回の報告会については、まちづくり協議会を焦点にして関連団体にPRするというのはどうか。各発表団体はある程度の呼び掛けはしていたのかもしれないが、今までこの報告会に対してはこちらサイドからの動きのみだった。ブースを出すことになれば、やはり各団体は集客率を上げるために、従来とは違った集客方法が出てくるのではないかと感じている。従来通り我々や事務局から関係課へお願いすると同時に、活動者自身が集客の為にどのような行動に出るのか楽しみにしている。

委員：市民協働自体がまだまだ市民に周知されていない。表題だけみるとやはり重たく感じてしまう。だからと言って、我々だけの、知っている方だけの会議にしているのか、という面もある。今回ブースを出し、企画も出していただくのであれば、楽しさを出していかなければならないと思う。市民協働は楽しいという、繋がりが出れば、広がりもあるだろう。併せて、まちづくり協議会も重たい、大変だ、という面だけではなく、楽しさも前面に出していく。そうすれば輪も広がって来る。お祭りのような行事にしたいという意見を、うまく汲んであげられるようにする。もう1点、委員長の述べていた相談コーナーも良いと思う。今まで資金援助を受けていた方からの相談も受ける。例えば里山ガーディアンと以前門松作りを一緒にさせていただいたのだが、資金繰りに苦慮されているとの話だった。カブトムシを幼虫から育てて売るという計画もあるとのこと。

委員：講師の資料を見たが、これからのまちづくりの中に、このような要素も入るのか、また入れられるのか。また商工会議所の中にも公益活動関係の部署があるのか。

委員：今回の講演会、佐倉のまちの磨き方という題名は、まさに歴史ある佐倉の方々を刺激する言葉だと感じた。商工会議所というより佐倉市自体で産業振興条例が制定され、委員会を立ち上げる中で、特に観光等の街自体を活性化させることを考えている。商工会議所の方でも観光産業委員会と産業振興委員会を新たに立ち上げ、佐倉の街を旧市街地だけではなく、シャッター通り等を抱えるそれぞれの街をどんどん活性化しようと動いている。非常にこの題目は商工会議所のやろうとしていることと近いと感じた。例えば七福神会や金毘羅市等、商工会議所では街を活性化させるという中で、色々なボランティア団体に参加していただいている。または資料館等の絡みの中で色々なボランティアの方々が携わっている。私も今回、是非このような方々にも参加してもらいたいと感じた。会議所の広報誌に出してもおかしくない。また会議所では経済講演会を行っているが、去年は応募が少なかったんです。今までは佐倉の広報誌で写真付きで出していたんですけど、それが去年だけは小さく字だけで掲載された。テレビでも毎朝出演されるような、結構有名な方だったにも関わらず参加が少なかった。今回の正月号は写真付きで掲載していただけるようお願いしている所。広報さくらは市民の方は結構見ているので、大きく出してもらおう。市民協働はとても大事なこと。特に高齢化社会の中で、使える時間が沢山あり、色々なことをやってみたいという方が多い。商工会議所にもボランティア的なものに多くの方が来ている。目を向けさせるためには、扱いを大きくしてもらえば、また新しい取り組みが出来るのかと。会議所の広報に出してみるのもありだと思った。

委員：産業振興条例の話があったが、自治基本条例の前にどんどん進んでいて、中身を見て驚いた。佐倉全体における活動が示されており、ここに公益活動系が絡める要素が沢山ある。前回の委員会でも皆さんにお配りして欲しいと話していた。自治基本条例が潰れた今、ベーシックな佐倉の活性化につながる、産業としての部分が示されている。地域を廻って見ると、市民カレッジの卒業生たちがボランティア団体を作り、自主的に仕事をしてきている。ああいう方々が沢山おり、市民カレッジの現役生も、卒業後どうしていこうかと色々な所で悩んでいる。福祉系に来るのか、あるいは歴史の案内に回るのか等、悩んでいる方がいるので、声をかける所というのは沢山ある。じっくりともう一度考えていきたい人達が、多種多様な活動の中で渦巻いているような情景がだんだん見えてきている。そちらへの声掛けを事務局に頼るのではなく、それぞれの委員の方やその周りの人達も声を掛けていくようにする。出来れば広報にも掲載する。写真はインパクトがある。それ以外は文書を持って、1人10箇所ずつ廻って来る等すれば、少し違って来る。

委員長：裾野を広げるというのは、ハードルを越えるという面がある。関心が顕在している場合もあれば、潜在的にある場合もある。何か活動しているようだが、自分でそうい

う場に出てみるという気にはなかなかならない。そういうハードルを越える。その為には、色々な文脈の人が関わっているということが見えなければならない。ボランティアをされている人達でも、良い意味でも悪い意味でも固定観念はあると思われるので、そのハードルを越える。例えば産業振興絡みの団体の方や、商工会議所も色々な形で関わっているということが見えてくれば、それだけでも魅力は増す。私も市民カレッジには毎年行っているが、受講生の方々の話を聞くと、今後の実践をどうするかという所で、多少は公民館の橋渡しがあるが、実践の場が色々見えてきて情報が入ってくれば、自分達はもっとやれる、と口を揃えている。橋渡しという意味もこういう場に絡ませられれば、非常に良い。市民カレッジも市長を呼んで毎年発表会をやっているようだが、皆さんはその後のことを話している。1つの情報提供という意味でも絡めるのはあり得る。その点についても各方面ご協力いただきながら、従来とは違う部分にも裾野を広げられるように旗振りをする。我々で出来ることであれば声掛けをし、事務局でもこれまで以上に幅を広げ、ジャンルの違う方面へも積極的に呼びかけをするとまた違ってくると思う。この流れとしては、事務局2分団体1分となっているが、どうか。事務局が報告するという事によろしいか。それとも、団体に3分預けるか。

委員：私は団体3分の方が良いと思う。事務局が仲介して出会うよりも、直接口下手だろうと何だろうと、直接話して出会った方が良い。3分なら3分ストップウォッチを使う。ボランティアの集いでも同様。ストップウォッチを使わないとどうしても団体紹介を1分でもお願いしても5分かかる人がいる。ストップウォッチで計測して、時間が近づけば途中でベルを鳴らす。対面でその人が分かるやりの方が私は良いと思う。

委員長：会場内でブースを作るのであれば、そのブースの前か3分で発表してもらうのか。それとも壇上に出て話すのか。

委員：ブースの前からの方が良いと思う。仲間も周りにいるし、話しやすい。壇上に出ると、1人では緊張してしまってなかなか話せない。

委員長：基本的には団体の方に。まとまって無くても良いので、直接声を聞く方が良い。

委員：それはそれで良いが、あくまで前提として、団体の方に持ち時間は3分でこの場は団体の紹介ではなく、活動の紹介だということを念押しし、時間内に説明するようにする。

委員：3分経てば強制的に話を切るようにするのはどうか。

委員：司会者の話だが、司会者がきちんと紹介してくれれば、団体が説明しなくて良いという流れにすれば良いと思う。

委員長：司会者はまだ決まっていないのか。

事務局：決まっていない。

委員長：委員の中から選んだ方が良いと思う。決めてしまっても良いか。

事務局：お任せする。

委員：ケーブルテレビの市民キャスターがいるが、ああいう方が良いのではないか。

委員長：この場合謝礼が必要になるか。

事務局：必要。

委員：ポイントを知っていれば、司会と言っても長々と話をするわけではないだろう。

委員長：市民協働について深く知っている方で、かつ盛り上げていただけると良い。

委員：それが一番難しい。

委員：時間内に終わらないかと。

委員：市民カレッジの話が出ていたが、市民カレッジの年間のカリキュラムを組んであるので、このイベントを出席の単位になる形で、1コマ入れることは出来ないか。次の活動に繋がるので。

事務局：市民カレッジのカリキュラムは、市民カレッジの方々と卒業生、向こうの事務局で組んでいるので、学びたい人が主体。こちらから呼びかけは出来る。

委員：その規格を、中央公民館の館長の決裁で決めているのか。

事務局：市民カレッジの場合はカレッジの運営委員会が別に組織されていて、委員の中で委嘱されている方々で話し合いをしてプログラムを決めている。それに基づいて公民館

サイドの方で、最終的には市長の決裁をとって、カリキュラムが決まるという形になっていたと思う。先程述べたように、運営委員会の席上で、カリキュラムの中に1コマとして入れていただけないかというお話は出来る。最終的には全体の駒数が決まっているため、その中で何が必要なのかということを見定めた中での決定になると思われる。

委員長：カリキュラムに入れていただければそれはそれで良いという話。そうならなくても、繋いでもらうような働きかけはカレッジ内では多分出来ると。

事務局：先程から出ている委員会の方々のブースや、司会というお話について。市民協働推進委員会議を全5回と予定をしているが、こちらの報告会も委員会の会議の一環と捉えさせていただき、ブース設置や司会をするというのが可能なかどうか、皆様方の意見や日程等をお教えいただきたい。計画を作るにあたっての参考にさせていただく。

委員長：先程から話に出ているが2月27日に、皆さんの出席が可能かどうかということ、司会を誰にお願いできるかということ。または相談機能や、委員会としての教室、または相談コーナーを設けるといのが可能かどうか。この点を固めないともそもそお願いすることが出来ない。ある程度の方々がもし出席可能ということであれば、そういった企画もこの中に入れても良いと思うが。

委員：出席は可能だが、イメージがちょっと取れていない。委員会のブースというのは、どのような形なのか。

委員長：相談ブースにする。どのような形でも良いと思う。市民協働活動そのものについてでも良いし、制度の在り方でも良い。まちづくり協議会を具体的に立ち上げると言った場合のコツでも良い。それら何でもいいので、相談できるコーナーを作る。

委員：委員長がそこに座っていると、そこに来て聞く人っていうのは限られた人になる。自治基本条例はどうするのかとか、そんな話ばかりになると思う。このイベントのイメージは、委員がそこに出て何か相談を受ける段階よりも前の段階なのだと思う。もっとその活動全部を知ってもらい、いざ具体的な手続きとなった時に、そこにサポートセンターだとか、そういう繋がりを自分は想定しているが。委員自身が1人ずついて、何かやったとしてもやはり専門が違うので、公益活動全般に対する相談を受けるという機能とは違うと思う。社会福祉協議会の心配ごと相談所のように、この日にはこの分野の専門家がいる、という所まで発展すればよいが。この日だけの単発的なブースで、限られた時間の中でやることではない。委員自身が出て行って司会やるというのは大賛成。それぞれ皆何か出来ることがあると思うが、ブースで何か構えるのではなく、この報告

会全体に役割を持つ程度で良いのではないか。

事務局：ブースは例えばサポートセンターにお願いして、市民活動何でも相談コーナーのような形で出すことも可能かと思う。司会の方を決めていただくと嬉しい。報酬の面は、この委員会に出席と同じような形で使うことが出来るので予算上は問題無い。出来れば、司会程度であれば、この委員会から出していただきたい。ブースをこの委員会で設けるとするのは少し違うのではないかと思う。

委員長：そもそもそこに至る前の段階をどう開くかということをも1つのポイントとすれば、我々に出来ることがもしあればそれぞれが多角的に動くという形に。ただ、司会の部分についてはこの委員会から選ぶということで。

委員：市民協働の相談コーナーを我々が運営するのではなく、事務局がそこにつくというのはどうか。

委員長：それはサポートセンターが主体となる。場合によっては事務局が加わる可能性も当然ある。

委員：サポートセンターが横断型にサポートしているので好ましい。まちづくり協議会のスタイルや、市民協働事業の相談、行政への依頼等があるとしたら市サイドの事務局もサポートセンター側と一緒にブースを構えていただく。

委員長：そのような質問も込みで相談できるという形にして、ブースとしてはサポートセンターの方に入れる。

委員：時間的なゆとりがあるかどうかはまず問題。皆さん講演会、報告会に折角参加するのなら、聞いて帰ってしまうのではなく、30分でも1時間でも良いので、まとめの会議をするのはどうか。今日これを開いてみてどうだったか、という新鮮な意見交換になるのではないか。

委員：賛成。帰ると忘れてしまう。その場で意見交換してしまうのが一番良い。

委員長：事務局的にはどうか。

事務局：会場は別の部屋もあり、17時までは借りている。事務局は片付け等をする必要があるが、別室で16時に閉会した後1時間、時間としてはある。どんな雰囲気でもど

な形で、というのは相談したい。場所と時間は何とかなるかと。

委員長：我々内部の意見交換という形で、イベント後設けるという形で良いか。是非その新鮮な印象の中で意見交換を行って欲しい。

委員：イベントの中で出会った人達が話すスペースとして、喫茶コーナーのようなものは作るのか。

事務局：会場内にテーブルとイスが喫茶店的に並んでいるスペースか。

委員：少しの間お茶を飲めるくらいのスペースがあると良い。

事務局：販売をするコーナーも設けるイメージか。

委員：販売までは考えず、テーブルに皆さんが座ってお茶を飲みながら会話ができるように。

事務局：それは会場内か、施設内か。

委員：施設内で良い。講演その他やっている中なので、会場内は無理かと。ボランティアの集いでは、あちこちにそういう場所がある。

事務局：使い方としては、参加された方が随時というイメージか

委員：そう。

事務局：会場のレイアウト的に工夫は可能かもしれないので、検討させていただく。

委員長：もう1回全部をまとめると、27日については13時から始まって、各団体に3分、活動についての紹介ないしはアピールをしていただく。これについては事前に団体紹介では無いということの確認をする。3分の中の内容は自由で、直接団体の関係者に各ブースの前で紹介していただくということによろしいか。その後ブース見学の時間をとる。第二部は講演会を行う。その後の質問等については、様式を少し工夫し、どういう質問を書けばいいのかというのがわかりやすいようにする。集約する段階でも手間が省ける。講師も入るのが直前なので、なるべく質問は簡潔に整理できた方が良い。第三部は全体のコメント。閉会後は市民協働推進委員会議を開催し、意見交換を行う。時間的

には大体 1 時間。

委員：主催というのは我々委員会という形か。

事務局：市が主催。

委員：市長挨拶があるが、その前に委員長挨拶があっても良いと思うが、いかがか。我々の委員会もアピールするところが欲しい。

事務局：この事業自体、市民協働推進講演会と活動報告会については、市が主催という形なので、主催者挨拶ということで市長が入っている状態。

委員長：委員会から一言ということで必要かどうか。位置づけはともかくとして。

委員：市の主催であれば市長の次でも。

委員：無理であれば、第一部が始まる時に。一言でも。

委員長：司会については改めて委員二人にという皆様の強い意見があるが。

委員：事前の打ち合わせがあるのなら。

委員長：司会については 2 人（松崎委員と渡辺委員）にお願いするというので。もし委員会から何か発信が必要だということがあれば、この第一部の所で良いかもしれない。その辺は事務局の方でご検討いただく。講演会と報告会については大体これくらいでよろしいか。

委員：これまでの実施団体についても依頼するかどうかについては、どうするのか。

委員長：事務局としては依頼したいということによろしいか。

事務局：特定の団体のみ選定して声を掛けるという方法は取るべきではないが、団体すべてに声を掛け、来ていただける方だけに来てもらう形で良いのか、悩ましい所。そうした場合に、ブースの数として成立するのかどうか。今回の報告団体のスペースを十分取った上で、これまでの実施団体のスペース確保が可能かどうかは検討しなければならない。スペースの問題が解決すれば、色々な活動をしているこれまでの実施団体と呼ぶの



は、意義があると思っているが、どうか。

委員長：現状のスケジュールで時間一杯なので、発表は無し。ブースはもしスペース的に可能であれば、これまでの団体に依頼するというのも可能かもしれないということで。

委員：2階の大会議室をうまく使ったらどうか。ボランティアの集いでも1階のホールを使いながら、2階で色々な展示等を行っている。2階の方に展示コーナーだとか、1会でのイベントの流れのまま、配置を生かして、2階の展示へどうぞという感じなら無理はないと思う。

委員：整理する人数が少ないと、2階に誘導するのは至難の業だと思う。

委員：声を掛けるのは賛成。その際、スペースの関係上先着順にするのかどうかは別にして、必ずしも全部お受けできないかもしれないという断りをつけて、これまでの実施団体全てに声を掛けるのはどうか。

委員：ブースを出す方々にスペースを指定する中で、どれくらいの数のブースが設置可能かは計算が出来るはず。そう考えると、会場は大ホールなので、十分ブースは出せるのではないかと。あまり多いようであれば、ブースを調整させていただく場合もあるということ事前に伝えれば良い。

委員長：声は掛けることにする。スペース的には事務局でどの程度の数になるかを想定しながら検討していただく。講演会については以上でよろしいか。事業評価について。日付については後程確認させていただくが、昨年度は3月28日に13時半から15時40分まで開催した。事務局から一通りざっとそれぞれの項目ごとに報告し、質疑を我々が行うという形をとった。この事業評価方法については例年通りでよろしいか。各団体の事業支援実施報告書は提出されているので、それを踏まえて各団体毎に1つ1つ、事業実施状況を確認していく。会計的な部分、事業内容、成果、またそれに対するアドバイスも含めてコメントし、各団体に伝える。例年このような流れになっているが、今年度も同様に良いか。

委員：市からの受託事業で運営している地域包括支援センターも、毎年1回審査として、事業進捗状況というのを1月に提出している。これはあらかじめチェックリストがあり、項目についての自己評価を出しておいて、実際に職員と役員が10分程度協議する。これで終わり。事前にかなり緊張感持って資料作っているのだから、当日の審査結果の報告はとて短い。10分でも要領良く報告し、次年度の方針をあらかじめ出して、こ

れを具体的にやれますかという確認をする。このように簡略化する道もあると思う。

委員長：当日、団体は出席しないのか。

事務局：例年の方法では、そうなる。

委員長：では簡略化は可能かもしれない。

委員：自分達で活動していてまずかったと思う所は、私達が意見を出す所と大体一致すると思う。事前に自己評価を出してもらえば、私達が意見を述べる量も少なくなり、時間の短縮にも繋がって良いと思う。

委員：社会福祉法人の監査でもチェックリストがあり、第三者評価等色々な監査評価システムが存在する。情報公開をどの程度自分達で行っているか、常に毎年自分達でチェックしている。これから公益活動系に、改めて委員会が団体に入り込むよりも、やはりその辺の自主性、自分達の点検能力を培っていくべき。今回は、団体の方にやっていただいたほうが良いと思う。

委員長：この事業の場合には報告会も両方あるので、両方出てきてもらうのは負担が大きいという面もある。

委員：継続団体がほとんどなので、新年度の所で直接言いたい所を言えば良い。チェックリストに賛成。

委員長：シートがどういう形になって行くかにもよるが、去年の終了予定時間が16時半、実際に終了したのが17時40分だった。質疑に時間をかなり費やし、事業内容の確認でも時間を費やした。その辺りはある程度資料を見れば済み、予定通りの時間に終わる可能性がある。先程の意見のように自己評価、シートの部分を団体の方に事前にある程度書いていただき、それに基づいて我々の方で評価をしていけばある程度効率よく進むとは思う。評価シート等については、事務局と相談し、どういう工夫が出来るか検討させていただく。基本的な流れについては今年度はこれでよろしいか。以上で議事の1つ目の確認を終了する。続いて議事の2つ目、今年度の事業の進捗状況について。

## (2) 市民協働事業の進捗状況について

平成22年度市民協働事業(市民提案型)について

事務局：資料に基づき進捗状況について説明。

平成22年度市民協働事業（行政提案型）について

事務局：資料に基づき進捗状況について説明。

委員長：今日は中間報告なので、詳細は年が明けてからの委員会で詰める内容だが、今日の段階で確認しておきたいことがあれば。

委員：市民提案型の中で、市の職員の方々が参加しているが、どんなことをしているのか。

事務局：採用2年目の職員に対しての研修。1日目は事前研修で、コラボレーション型職員という考え方で、団体の発想のような考え方をもって自分の事業を見直そうというコンセプト。職員の枠に囚われずに、色んな発想を持つという研修を受けた上で、2日目が体験研修。市内の実施団体、協働事業の実施団体に限らず、専門性の高い団体に市からお願いし、6団体に受け入れていただいた。当初取材という形をとる予定だったが、トータルでコーディネートを行った講師と協議し、外からの取材よりも中に入って感じてもらうべきだということで、体験がメインになった。例えばNPO法人バラ文化研究所では、バラの苗の世話等の作業を一緒にしたり、八幡台のほっとクラブでは、お年寄りのお食事会のお手伝いをしたり、NPO こどものまちでは、縁側カフェと一緒に運営した。上志津原まちづくり委員会では実際の活動は少なかったが、活動の紹介と、園芸のグループの活動を一緒に行った。3日目は持ち帰った体験活動の発表会を行った。その後報告書という形で、団体の活動内容と、自分達の体験の内容の報告を提出させ、庁内で共有しようと思っている。後日委員の方々にも配布できると思う。

委員：2年目の職員だけではなく、他の職員の参加も必要と感じた。

事務局：補足だが、1日目の講座についてはオープン研修として、2年目で無い職員も15人程希望で参加はしていた。団体への体験学習については、2年目の職員のみ。実際にやってみて良かったと思っている。発想がまだ柔らかくて、団体さんの方も受け入れやすかったのとこと。

委員長：研修が市民協働に絡んでくるのは非常にいいことだと思う。研修といってもいろんな形態があるから、それがうまく組み合わせさせて行くことを今後期待したい。

委員：NPO 子どもステーションの事業の内容が、少なくとも今の中間報告を見ただけでは、利用者の目線で、こうあった方が良くという提言がどこに出ているのかわからない。もう少し具体的に、地域特性に沿った現実的な提言をした上で、それを市の方で公園の使

い方を紹介すべき。これでは現状を報告しているだけに見える。

事務局：本日示した内容については、自治人権推進課の市民協働サイト内に中間報告として主だった内容を掲載しただけのもの。今話のあった課題提案の部分については、事業審査時にいただいた意見を踏まえ、約25項目の調査項目を設定し、その内容について担当課に定期的に報告いただいていると聞いている。また、委員会時に担当課が回答したように、3月末の事業完了後に、報告内容をもとに、新年度以降、担当課が管理するサイトにアップしたり、公園の改築や修繕などに活かしていくと思う。今回示した内容については、あくまでも中間報告として概要程度をまとめたものとしてご理解いただきたい。

委員：最初の説明にもあったが、色々やっぱり調査の中で、千葉大の先生の話の聞くなかで問題意識を持って色々と考えているみたいなので、最後まとめる時は提案が出てくるんじゃないかなという感じはした。

委員：公園の住所とかその辺は書いてあるのか。ホームページに、名称だけだとわからないのでは。

事務局：調査項目の中には、住所などについても盛り込んでいるようなので、今後、公園の住所などの情報についても担当課のサイトにおいてアップされるものと思っている。

委員：質問では無いが、アミーゴしずさんが採用されてから広報が非常に明るくなって見やすくなったと思う。綺麗な写真が出ているので読んでみようかなという感じになった。非常に明るくなったと感じた。

事務局：広報課に確認したところ広報モニターから、広報がとてもわかりやすくなったという感想があった。

委員：何度も言っていることだが、行政提案型とかこういうものはなかなか出にくいのが実際だと思う。総合計画が終わってからでないと思う。例えば配食サービス系だとか、福祉では我々の方で、市主体で高齢者への配食サービスというものを呼び掛けしてくれないかと。それで公募かけて、社会福祉施設が応募して行って事業が出来あがって行くとか。高齢者の癒しはペットに尽きるくらいの、親よりペットが可愛い人たちって実際にいるわけで、こういうペット問題とかっていうものを例えば行政の窓口がどこかわからないが市民に提案していくような。解決策のアイデアを各セクション、各課ごとに市民に問いかけていくようなそんなスタイルもあったらちょっと違って来るかなと。

#### 4 その他

##### 第4回委員会以降の議題及び日程について

事務局：その他について説明させていただく。1点目が第4回の委員会以降の日程について。そして、2点目として自治会・町内会長等の表彰制度について。3点目として、市民協働推進委員会委員の改選について。最後4点目、今年度中に自治人権推進課が関わる各種行事についての紹介させていただく。1点目委員会の日程について。説明の後、日程調整の方をさせていただく。2点目以降については、一括して説明し、終了した時点で質疑応答に入りたい。

1点目の委員会の日程等について。根郷地区のまちづくり協議会が2月20日(日)に設立総会を予定している。これに伴い同地区において平成22年度の事業として、地位課題を探る研修事業を行いたいので、申請をしたいとのこと。この為、設立総会終了後、第4回としてこの件の審議を一度させていただく。その後第5回目として、平成22年度市民協働事業として採択された各種事業の評価関係をお願いできればと思っている。第4回目の日程については、根郷地区のまちづくり協議会設立総会と同日の2月20日(日)14時くらいから開催するのが一番ありがたいと思っているが、どうか。委員の都合がつかないということであれば、2月26日以降の中でどこかご都合のつく日を、と考えている。ちなみに第4回の委員会議については、根郷小学校のまちづくり協議会の事業申請、1つのみ。時間的にはそれほどかからないと予想している。こちらで挙げている日程で都合がつかないのであれば改めて調整となるが、その場合も2月の末から一般質問が入っている関係で、3月の中旬が質問関係、そして週明けの7日から委員会関係が入ってくるため、その間を縫ってという形にならざるを得ない。

委員長：2月中は厳しい。

事務局：3月下旬となると、事業実施自体が厳しくなってしまうので、どこかで時間調整が取れば2月辺りが一番有難い。平日はいかがか。

委員：2月27日の報告会の後の時間はどうか。その方が少し時間かかっても問題ないと思う。

委員長：議題は根郷地区のことだけでよろしいか。

事務局：はい。

委員長：27日であれば、全員大丈夫な様子。会場を借りる時間を後ろに伸ばすことは可能か。17時までには予約されているとのことだったが。

事務局：コミュニティセンターの中で集まって話せるスペースで、夜までという所を確保する。

委員：事務局は後片付け等があるので17時くらいの時間帯になってしまうか。

事務局：正式な市民協働推進委員会となると、傍聴の用意や記録の関係等がある為、その辺は少し考えなければならない。

委員長：報告会が終わった後のタイムスケジュールについては事務局に任せる。片付け等は我々が協力しても構わないし、その間意見交換していても構わない。その辺の組み合わせは検討いただきたい。第4回は2月27日ということで。

事務局：続いて第5回目については、実績報告書の提出と取りまとめの関係があるので、毎年どうしても3月末に開催せざるを得ない。3月26日(土)午後を考えているが、ご都合等はいかがか。

委員長：講演が入っている。

事務局：翌日の27日はいかがですか。

委員：佐倉朝日健康マラソンがある。しかし年度末なので、全員が出られないのは仕方が無い。

委員長：去年は確か午後だった。27日の午後はどうか。

事務局：では3月27日(日)午後ということで。

#### 自治会・町内会長等の表彰制度について

事務局：自治会町内会長等の表彰制度については、平成20年度から県内35市の表彰調査を行い、市内の自治会町内会の各連合協議会、そして各地区代表者の事務説明会の場においても意見を伺った他、市民協働推進委員会にも諮り、意見を伺ってきた所。この経過の中で、やっと表彰制度について、具体的な日程関係の調整がついたので、この場を借りて報告させていただく。地域にご助力をいただいた自治会・町内会の長等を対象とする表彰について、仮称ではあるが、佐倉市自治会・町内会・区の長等表彰式として、中央公民館のホールにて、2月12日(土)13時半からを予定している。表彰の候補

者は、各地区の連合協議会からの推薦で上げていただく。通算10年以上の表彰候補者が6名、通算2年以上の感謝状の候補者が85名の推薦を現段階でいただいている。この後、規程等に基づき表彰が決定し次第、各自治会町内会の対象者に案内状を送付させていただくという段取り。なお、当日の表彰式では表彰と併せ、基調講演ということで法政大学の名和田教授を招くということで調整している。

#### 市民協働推進委員会委員の改選について

事務局：来年の3月27日をもって委員の委嘱期間の任期が切れる。平成19年の3月3日が第1回会議で、今回が24回目の会議となる。委員の方には大変お世話になった。新年度からは、所定の手続きにより、新たに委員を選出することになる。先の説明の通り、根郷小学校地域まちづくり協議会の事業申請に伴う審査、採択事業に伴う評価の、最低でも2回の会議を予定しているので、ご協力願いたい。

#### 各種行事等の紹介について

事務局：市民公益活動ポスター展を、1月25日から30日にレイクピア臼井の3階で実施する予定。今年度はポスターの採点を来場者の方にお願ひし、賞を出すという企画を考えている。また、市民憲章40周年記念式典と併せて、佐倉ヒューマントークを合同開催する。3月19日(土)に市民音楽ホールを会場とし、講演会と併せた形で、40周年記念のキャラクターと標語を発表する場となる。もし都合が合えば、ご出席いただきたい。残念ながら講師の選定が、一度瀬戸内寂聴さんに決まっていたのだが、体調を崩されてキャンセルの連絡を先日いただいた。現在、再度講師の選定に入っている。良い講師の方をお願いして、当日を迎えたい。また、市民リーダー研修の一環という形で、1月22日(土)に、コミュニティレストラン講座を予定している。これは地域課題に色々な形で対応できる、地域の食堂づくりというテーマで、地域食堂をツールとして地域課題に対応しようという講座。先日ふるさと弥富を愛する会の交流会で、先々こういうことをやりたいという意見の中にも、コミュニティレストランの企画が提案として出ていた。こういった事業も推進していければな、と思っている。続いて、3月5日(土)の講座について。昨年度も会議の作り方と企画の作り方と銘打ち、平日の木曜日、金曜日の2日連続で2月に実施した講座。受講者からのアンケートで、次にどんな講座が受けたいかという希望の項目に、もう一度この講座を受けたいという意見が数多く寄せられた。また、前回この講座を案内した時、委員からも土日の開催は無いのかという質問があったため、今年度同じ内容で1日限りではあるが、3月5日(土)に、会議の作り方講座を企画している。

委員長：以上のことについて、何か確認事項は。無ければ、それぞれのことについて改めてご確認いただく。第4回と第5回の委員会会議について。第4回は2月27日(日)、報告会終了後。第5回が3月27日(日)の午後ということで、お願いしたい。以上が今日予定されていた議事だが、それ以外について、委員から何かあるか。無いようであれ

ば、今日の会議については以上とさせていただきます。議事録署名人は、渡辺委員にお願い  
する。以上で全て確認したため、会議を終了する。

平成23年2月18日(金)

委員長 関谷 昇

副委員長 高岡 良子

議事録署名人 渡辺 章二